



発行所 財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 関山 巧
定価 1部金44円

消さないで
あなたの心の
注意の火

平成十八年春の叙勲 県下から消防功勞により十五名が受章

平成十八年春の叙勲が四月二十九日(みどりの日)に発令されました。
消防関係の受章者は、全国で四四七名、うち兵庫県では、元消防団・職員十五名が榮譽に輝きました。

受章された方々は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災をはじめとする各種の災

害から防護するとともに、消防力の強化・拡充に尽力し、社会公共の福祉の増進及び業界の発

展に寄与した消防関係の方々です。

伝達式は、五月十日(水)十時三十分から東京・虎ノ門の日本消防会館内ニッショーホールで執り行われ、消防庁長官から各代表者に叙勲が伝達されました。



叙勲伝達式

〈全国消防関係受章者数〉

- 瑞宝中綬章 一名
- 瑞宝小綬章 一七名
- 旭日双光章 四名
- 瑞宝双光章 一〇六名
- 瑞宝単光章 三一九名
- 計 四四七名

〈兵庫県下受章者(消防功勞)〉

◎瑞宝双光章
元神戸市垂水消防団 団長 石坂 爲直



元丹南町消防団 団長

酒井 好文



元東条町消防団 団長

柳 覺



元姫路市 消防監

服部 俊雄



◎瑞宝単光章

元赤穂市消防団 副団長

池内 正光



元尼崎市消防団 分団長

岩井 春喜



元東浦町消防団 分団長

島田 紀



元西宮市消防団 副団長

住田 茂一



元加古川市消防団 副団長

高見 良三



元明石市消防団 副団長

戸田 利秋



元姫路市姫路西消防団 団長

中野 安男



元朝来町消防団 団長

松本幹一郎



元龍野市消防団 副団長

丸山 義實



元神戸市兵庫消防団 団長

道林 勇二



元相生市消防団 副団長

本谷 良知



平成十八年春の褒章

平成十八年春の褒章が四月二十九日(みどりの日)に発令されました。

消防団員として永年にわたり消防防災活動に献身的に努力し、消防の発展に大きく寄与した方々に授与される藍綬褒章は全国で四十八名、うち兵庫県では、消防団員二名が受章の榮譽に輝きました。

伝達式は、五月十七日(水)十一時五分から東京の虎ノ門パストラルホテルで執り行われ、消防庁長官から代表者に褒章が伝達されました。

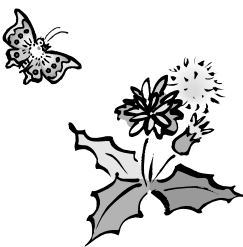
〈兵庫県下受章者(消防功勞)〉

◎藍綬褒章
神戸市北消防団 団長 柵木 和明



加東市消防団 団長

吉田 繁



褒章伝達式



三木市消防団 副団長 中井 英典

三木市消防団は、昨年十月二四日に吉川町との合併により新たな体制でスタートし、三八分団、一〇三班で団員数、四二八名を擁する組織に変わりました。

三木市は、古い歴史と自然に恵まれた、三木金物と日本一の酒米の産地です。

私が消防団に入団したのは、昭和四十七年四月で入団して、三四年目を迎えています。私の父も副団長をしていた関係上、幼い頃から父親の背中を見て育っており、入団に際しても何の抵抗もなく地元先輩からの誘いもあり、当然のように夢と希望を胸に入団しました。

入団して二年目の一月十二日の深夜、私の在籍する分団の寺院が火災し、出動しました。その日は、寒さが厳しい夜で放水した水はすぐに凍結し、滑って転倒する隊員が続出するなど、悪戦苦闘の末の厳しい消火活動でした。結局、全焼火災になりましたが、付近への延焼をくい止めることが精一杯の活動であったことが昨日の様に思い出されます。

その後、幾多の建物火災や林野火災、行方不明者の捜索等幾度となく出動しました。特に、平成七年の阪神・淡路大震災ではグリーンピア三木と三木山森林公園での救援物資搬入搬出で夜通しで汗を流したことは、今でも、はつきりと記憶に残っています。

また、五月に副団長を拝命した平成十六年十月の兵庫県全域を襲った台風二三号の襲来が今も強く印象に残っています。早朝から降り続いた雨の影響で三木市に流れている美の川のおちらこちらで災害が発生しました。細川町西の細川橋が氾濫し、付近の住宅の床上や床下が冠水して、私は過去に経験したことのない水防活動を自ら指揮し、体験して自然災害の恐ろしさを改めて痛感させられました。この様に大きな災害が発生した際には、消防団員等による被害の軽減や住民の安全確保の重要さと共に、住民の消防団に寄せる期待の大きさを再認識させられた思いです。

近年、住民の安全、安心を守るため、国民保護法も施行され地域の危機管理体制が大きな課題となっている今日、消防団は地元コミュニティの支援活動など地域に根ざした活動に心掛け、今後は、「明るく三木市、自分たちのまちは、自分たちで守る。」の精神のもと、常備消防と一致団結し、日夜精励していきたいと思っております。

平成十八年四月二日、丹波市消防団発足後初の消防操法大会に向けて、丹波市消防本部にて消防操法講習会を開催しました。当日は、小雨が降る肌寒い天候でしたが、参加した消防団員は、丹波市消防署員から、操法要領の改正点を中心にした講習に熱心に聞き入り、実技指導では、行動要領を一つひとつ確認しながら講習に取り組み、大会へむけた技術力の向上に意欲的に取り組みました。

丹波市消防団は平成十六年十一月一日の統合後、旧町域を一つの単位とした支団体制をとっていることから、各支団(六支団)で大会を実施し、ポンプ自動車部の部・小型ポンプの部で優秀隊を一隊ずつ決定し、丹波市消防団本部大会を開催することとしています。

今後は、各支団幹部を中心に一丸となって消防操法の練習に取り組み、各大会の成功に向けた調整に取り組んでいきます。以下、大会日程

・柏原支団 五月二日(日)
・山南支団 五月八日(日)
・青垣支団 五月十四日(日)
・春日支団 五月十四日(日)
・水上支団 六月十一日(日)
・市島支団 六月十八日(日)
・本部 七月九日(日)



講習風景



実技指導

消防団今昔

50

神戸市西消防団神出支団 副団長 穴田 泰久



神出支団は、明治十年頃の火消組等の私設消防を起源とし、約一三〇年の歴史があります。大正十五年に公設消防となり、戦争、合併、分区等の組織変遷を経て、当初、六一〇名で編成されていた神出消防組が、昭和五八年十月に現在の九分団、十八班、定数二八一名からなる「神出支団」となりました。設備は、火消組時代の鐘、太鼓による通

報設備からはじまり、水鉄砲、消火桶、鳶口、龍吐水器、雲龍水へと徐々に近代配備され、現在は、小型動力ポンプや積載車など消火性能の向上および機動力を備えるようになりました。この間、地域からの物心両面の支援を受けながら、日常訓練、防火、防災活動等を通じて、信頼される消防団となっております。私は、昭和四四年四月に神出消防団山西分団の団員として入団し、平成六年四月に神出支団第六分団山西班の副分団長になりました。また、同年十一月に、念願の積載車が配備されたことを、今でも記憶に残っています。しかし、嬉しき東の門、翌年一月十七日に阪神・淡路大

震災が起き、神出町では、多くの溜池・堤防そして道路に亀裂が発生しました。幸いにも人災等はありませんでした。震災当日の夕方、神出支団への出動命令が下り、管轄外への出動もしました。当時の状況は今でも目に焼き付きいております。初めて地元以外での活動は困難を極めました。日頃積み重ねてきた訓練の成果が発揮されました。この活動を通じ、私は、水利の把握、確保、初期消火活動、日頃の訓練と装備の備えの重要性を改めて痛感しました。

平成十六年四月に神出支団の副支団長として任命されました。私はこの重要な責務に大変不安を感じていましたが、この無力

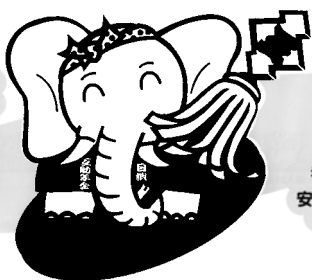
な私をあえて迎え入れて頂いた神出支団に対して精一杯努力し、伝統ある神出支団の名に恥じぬよう支団長を中心に一致団結し、神出町の安全・安心のために更なる活動をして行きたいと思う次第です。神出町は、広大な地域に、約八〇〇〇人が住む歴史ある農村地域です。地形的には水が恵まれない、溜池が水利の要となっており、火災、災害、発生時には消防署も遠く、消防団は無くしてはならない大切な存在です。しかし、人口増加、市街化にともない一日も早く神出、岩岡方面にも消防出張所を建設していただくことをお願いしたいと考えています。今後、この問題に対しても努力して行く方針です。皆様方のお力をお借り出来れば光栄です。

地区通信

「消防操法大会にむけて始動」 丹波市消防団初めでの消防操法大会 丹波市消防団

みんなで入ろう互助年金

消防互助年金



安全・確実・安心です!

老後の生活 安定のために!

【消防の仲間が支える互助年金】

人生80年時代! 老後の準備は怠れません

消防関係者一人ひとりの老後を充実させます

- ・会議などの際に、お呼びいただければ(財)日本消防協会の職員が説明に伺います
- ・費用は無料ですし、些少ですが会議費を助成致します
- ・消防互助年金制度説明用ビデオの貸し出しをしております

お問い合わせはフリーダイヤル 0120-658-494



「基本が第一」

篠山市消防団

坂下 邦男 団長



篠山市は、県の中東部に位置し、人口四六、九五六人（平成十八年二月末）、面積三七七、

六一畝、山林と田に囲まれた自然豊かな地域であります。

坂下団長は、昭和三十九年に消防団員拝命以来、四一年の永きにわたり、団員並びに幹部として活躍され、その間、旧町（西紀町）の町会議員の公職にも奉職され、豊かな経験と知識をもって、平成十一年の合併後二代目の消防団長として平成十七年から就任されています。

員への基礎知識講習会の実施等率先して行い、技術の向上や安全確保のため積極的に取り組まれています。

厚い信望を集められています。篠山市のまちづくり施策の目標である「人と自然が調和する田園文化都市づくり」の実現に向け、常備消防と連携を保ち市民生活の安全確保に努め、災害に強い「安全で安心のまちづくり」を推進する要としての役割を自負しながら、日々献身的に努力されています。

就任後は、「基本が第一」の方針のもと、隔年で実施していた操法大会の毎年開催、新入団

際には、愛車の軽トラックでいち早く現場へ駆けつけ、陣頭指揮にあたり、被害の軽減に努め

わがまちの団長さん

134

「全国に誇れる消防団に」

加西市消防団

吉田 秀貴 団長



加西市は兵庫県の南部、播磨平野のほぼ中央部に位置しており、「花と緑のまち、加西」にふさわしい観光スポット県立フラワースタター、また歴史的遺産も

数多く残っており、国宝の法華山一乗寺三重の塔や播州三大祭りの一つ節句祭りは八〇〇年以上前に始まり、長い歴史と伝統を引き継ぐ祭りとして有名です。

また、各種訓練時においては団員の技量の向上を強く望まれ、時には鬼となることもあります。が、安全・的確・迅速をモットーに現場で失敗しないためにも団員に鞭を打ち指導されています。

わがまちの公私多忙な団長さんですが、今後も災害の無い安全安心な加西市にするために、地域防災のリーダーとしてご活躍されることを期待しております。

加西市は兵庫県の南部、播磨平野のほぼ中央部に位置しており、「花と緑のまち、加西」にふさわしい観光スポット県立フラワースタター、また歴史的遺産も

昨年、兵庫県防災ヘリを要請した林野火災の現場では、団長自ら陣頭指揮をとり、的確な指示、

判断により被害を最小限に食い止めることができたのにも、指導力の大きさを感じさせられました。

このたばこの
フォーマシヤル
の川レスカ



地区通信

「ブライダルシティ」の消防団

高砂市消防団

★ブライダル都市高砂

当市は婚儀によく詠われる謡曲「高砂」発祥の地、「尉と姥（じょうとうば）」で知られる「相生の霊松」があり、ブライダルを「結婚」と言う意味としてとらえるだけではなく、「愛・和合・平和」というテーマから、子供から高齢者まですべての市民が夢を持ち健康で明るく生きがいを持って生活を送ることができ

る街を目指し、昭和六三年七月にブライダル都市宣言をしました。

当消防団は、田中団長以下六七五名の団員が、「安全・安心」

の街づくりのため、地域防災の中核を担って活動しています。

★消防団活動の環境整備

消防団員の就業形態の変化に伴い、当市においても全団員の七五％がサラリーマンという状況を憂慮し、市当局と協議し平日昼間の団員の出勤を確保するため、市職員で消防団として在職中の職員四十名について上司の許可があれば出勤できる体勢を整えました。

★消防団員集団献血

輸血用血液の慢性的な在庫不足を憂慮し、平成十七年四月十七日、消防本部訓練場において

献血を計画したところ、消防団員一〇五名の応募がありました。

当日、県姫路赤十字血液センターの献血車を訓練場に設置し、体調等の検査の結果、七九名から約三三〇ccの貴重な血液を献血しました。今年度は平成十八年四月三日に実施し、今後も継続していく予定です。

★普通救命講習会

平成十七年十一月十三日に消防本部において第四回普通救命講習を受講しました。この講習会は平成十六年度から毎年二回実施しており、今回一三七七名全員が受講し、「救命の連鎖」の一つの輪である「早い応急手当」を習得し、社会福祉の増進に寄与していくところです。

今回から初めてAEDの使用方法について受講し、参加団員一同熱心に取り組みました。



消防団員集団献血



普通救命講習会

北から南から

豊岡市豊岡消防団

兵庫県北東部に位置する豊岡市は、平成十七年四月一日に北但一市五町(豊岡市、城崎町、竹野町、日高町、出石町、但東町)が合併して発足し、県内最大の面積を有する自治体となりました。

北は日本海、東は京都府に接し、海岸部は山陰海岸国立公園であり、南は山岳・高原地域が広がり、多彩な四季を織りなす自然環境に恵まれています。

豊岡市豊岡消防団はその旧豊岡市(今では豊岡地域と呼んでいます)を準備範囲とする消防団です。

豊岡地域は一昨年の台風二三号水害において一級河川田山川の決壊により大きな被害を受けました。当時の豊岡市の人口はおよそ四七、〇〇〇人でしたが、避難指示の対象となった住民は最大時四一、七九四人(約九割)にも上りました。浸水等による住家被害は全壊二三一棟、大規模半壊八四九棟、半壊二、〇七六棟、土砂災害も一〇〇件以上に及びました。

台風二三号水害からすでに一年半が経過しました。この水害を教訓に、豊岡市豊岡消防団では、災害対策の向上を目的とした様々な取り組みを行っていただきますのでそのいくつかをご紹介します。

①水防指導員の養成

水害への対応時、消防団は地域の自主防災組織と一体となっ



ボートを使って落水者を救出する団員



水防指導者の指導によるどのうづくり

た活動を展開することになりました。消防団では、災害現場における各種の水防工法実施の際のリーダー役となる「水防指導員」を各分団内に養成しています。

水防指導員は、これまでに消防団・自主防災組織合同訓練における水防工法指導や消防団水防工法勉強会、ロープの結び方等の自主研修会を実施するなど、持てる技術の更なる練磨に励んでいます。

②水難救助委員会の設立

台風二三号水害では、急激な水位の上昇と堤防の決壊により、避難できなくなり、自宅に取り残された人がたくさんいました。逃げ遅れた住民の救助活動をスムーズに行うため、消防署の協力を得て水難救助訓練を行っています。

訓練では、船外機つきボート

を実際に田山川で使用し、向こう岸の逃げ遅れ者をはしごを使って救出したり、川に落ちた人の救出を行いました。今後も全ての分団で操船や水難救助に当たれるよう分団ごとに訓練を行っていきたくと考えています。

③アマチュア無線クラブの設立
消防団には、アマチュア無線の愛好家が多いことから、消防団内に無線クラブ「コウノトリFDハムクラブ」を設立し、有線電話や無線等による情報伝達機能がマヒした場合の有力な通信手段として、この取り組みを進めています。

今後様々な減災への取り組みを進めるとともに、消防団活動の活性化を図っていきたくと考えています。

現在、豊岡市豊岡消防団では、八月の兵庫県消防操法大会に出場するため、全分団で連日わたり、操法訓練を行っています。各団においても同様に連日連夜、訓練に励まれていることと思いますが、共にならばよろしいでしょう！

兵庫県消防協会 ホームページアドレス



「こんにちは!ひょうごの消防団です」
<http://www.hyogoshoubou.jp/>

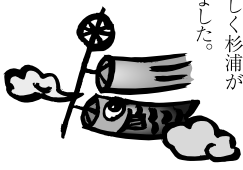
編集後記

心地よい風が、青葉若葉を揺らす季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、今月号では平成十八年度春の叙勲・褒章について掲載しております。また消防団今昔には神戸市西消防団神出支団副団長穴田泰久さん、三木市消防団副団長中井英典さんより寄稿いただきました。厚くお礼申し上げます。

なお、今年度の「兵庫消防」の編集は引き続き高見、市来と、新しく杉浦が担当となりました。

よろしく
お願い致します。



消 防 団 服

- 甲 種 日毛・帝人・東レ団服・作業服・制帽
- 乙 種 刺子・木綿

ハッピー・ズボン・腹掛・革バンド

附属品一式

キンバイホース 兵庫県特約店

株式会社 三 浦 消 防

姫路市竜野町1丁目1番地
電話(姫路)92-0447
(0792)98-8663

美と力を備えた
新しいテクノロジーが
社会と暮らしを守り続けます。

安心を科学する モリタです。

株式会社 モリタ

本社 〒544-0003大阪市生野区小路東5丁目5番20号
TEL06(6756)0119 FAX06(6756)3473
東京・大阪・名古屋・仙台・福岡・富山・松山



吉谷式消防ポンプ自動車

営業品目

- 屈折梯子付消防ポンプ自動車
- 化学消防ポンプ自動車
- 水槽付消防ポンプ自動車
- 普通型消防ポンプ自動車
- 高発泡機付消防自動車
- 消防救助工作車
- 小型ポンプ積載車
- シバウラ小型動力消防ポンプ
- 各種消防用品
- 消防用ホース



株式会社 吉谷機械製作所

本社・工場 鳥取市古海356の1
TEL(0857)23-2211(代)
FAX(0857)27-1766

世界へ羽ばたく!

GMの消防自動車

大槻ポンプ工業株式会社

●本社・営業本部
〒623-0021
京都府綾部市本町7丁目67-2
TEL(0773)42-0681(代)
FAX(0773)42-9229

